

令和7年度 名取市地域ケア推進会議 概要報告書

<日 時> 令和7年8月29日(金) 午後6時30分から午後8時00分

<会 場> 名取市文化会館 小ホール

<出席者>

委員：溝井会長、轡副会長、久保田委員、大友委員、遠藤委員、洞口委員、佐藤(和)委員
(欠席：大内委員、菊地委員、佐藤(智)委員)

地域包括支援センター：東包括：豊田所長、南包括：宮地所長、西包括：桃野所長、
中部包括：北條所長

オブザーバー：名取市医療・介護連携支援センター 高橋相談員、
名取市認知症初期集中支援チーム 尾形チーム員

事務局：中山健康福祉部長、橋本課長、高橋課長補佐、安齋主幹兼係長、
山崎技術主幹、吉田技術主査、大竹保健師、佐藤

傍聴者：なし

<内 容>

1 開 会

2 あいさつ 溝井会長

3 職員紹介（異動があった職員のみ）

4 内 容

(1) 医療・介護連携支援センターの取組状況について

資料1

(高橋相談員より説明)

議 長：委員のみなさまから今の説明に対してご意見やご質問はございますでしょうか。

委 員：11/8 薬剤師とケアマネジャーの交流会「認知症の疑いがある方への対応について」
参加者26名とのことだが少ないように感じる。どんな内容であったのか教えて欲しい。

相 談 員：おれんじサポートなどの職員に来ていただいて説明をしてもらったが、薬局に
来た人がひょっとして認知症かと思った時の対応について等の内容
であった。

委 員：「名取市医療・介護サービスマップ」は名取市だけではなく、近隣の仙台市や岩
沼市の医療機関等の情報も載せた方が有効だと思うがどうか。

事 務 局：名取市民でも仙台市寄り、岩沼市寄りに住んでいる住民は近隣市町の医療機関等
にもかかっていると思うので、その情報も載っていることは有用だとは思いますが、
近隣市町にも確認する必要もあることから、持ち帰って課内でも検討する。

委 員：2024年度相談内容の医療・疾病相談はどんな内容が多いのか教えて欲しい。

相 談 員：何か疾患にかかったときにどこの病院にかかったらよいかという内容が多かった。

(2) 認知症初期集中支援チームの取組状況について

資料2

(尾形チーム員より説明)

議 長：委員のみなさまから今の説明に対してご意見やご質問はございますでしょうか。

委 員：各地域で地域ケア会議を開催しており、会議は継続していただき、出席している
町内会長は分かっている人もいるが、分かっていない町内会長も多いので、町内
会長会で認知症の研修会をして欲しい。

- 議長：非常に貴重な意見ですので、実施できるように検討して行って欲しい。
- 委員：個別相談は 1 回では済まないと思うが、何回ぐらい支援して、どのぐらいの期間関わるのか教えてください。
- チーム員：初期集中支援なので 6 か月が支援の目途ではあるが、ケースによってはもう少しかかる場合もある。本人の病識があり、家族との関係も良好で訪問を 1 回して、スムーズに受診につながれば、3 回ぐらいで支援が終了するケースもいれば、信頼関係構築に 2～3 回かかるケースもいる。
- 委員：いままで支援してきた中で、一番大変だったケースはどんなケースか。
- チーム員：暴力的で本人や家族に身の危険が迫っているケースが大変であった。そうなってくると、認知症の治療というより、精神科的な治療に繋ぐ必要性が出てくる。
- 委員：広報・普及啓発活動と支援ネットワーク構築に中学校があるが、中学校から依頼があったのか。なかなか子ども達に認知症について広報・普及啓発活動できる機会はないと思うので、どのように繋がったのか教えて欲しい。
- チーム員：名取第二中学校で毎年お仕事博覧会という、いろんな企業や施設の職員から仕事の内容の説明を受ける授業があり、介護施設職員と兼務している兼ね合いで参加している。介護施設の仕事全般について話しているが、その中で認知症についても話してきている。感じたこととして、地域包括支援センター等が普及啓発を頑張っている効果もあり、認知症を知らない子はほぼいない。認知症について聞いたことがある、勉強したことがあるという子がほぼほぼである。

(3) 地域ケア会議の開催状況について

資料 3・4・5

(事務局・各地域包括支援センター所長より説明)

- 所長：下増田地区では、『居場所づくりの「今」と「これから」』をテーマに話し合いを実施している。R5は地域連携、地域の見守り、居場所づくりが必要との意見が出て、R6は地域の強み・弱みを捉えて世代を超えて気軽に参加できる自由に出入りできる場があるといいという意見が出た。下増田地区は夏祭りや清掃活動などの地域資源があり参加しやすい場があるが、参加しない人へのアプローチはどうするかが課題となった。今後は地域を細分化して話し合っていく予定である。
- 増田地区では、『地域×防災×専門職 つながりづくりに向けた意見交換会』をテーマに話し合いを実施している。災害時の対応をテーマに災害から身を守るために、避難行動要支援者名簿・防災・地域のつながりについて話し合った。増田地区では自主防災訓練や増田小学校との合同避難訓練が行われており、今後は夏祭りに防災のイベントを取り入れる、防災をきっかけに顔の見える関係を作っていけるといいという意見が出た。
- 閑上地区では、『地域の支えあいについて語る会』をテーマに話し合いを実施している。地域のつながりづくり、声をかけられる地域、参加できる場所がある地域、困っている人へアプローチできる地域を目指し、年を重ねても住み続けたい地域についてどのようなコミュニティが必要か話し合った。閑上地区は昔から地域のつながりが強く、公民館のイベントが多く、今後は閑上の歴史を話し合う機会があったらいいという意見も出た。
- 所長：住民にアンケート調査を実施し、名取が丘地区では、見守り・防犯対策を希望する声が多かった。そこで7月に岩沼警察署・館腰交番より警察官をお呼びし、「地域でできる防犯対策」について話し合った。毅然とした態度で対応する、お互いに声をかけ合う、気軽に相談できる地域づくりが必要であるという意見が出た。また、町内会長からは「ここに住んでいて良かったと思える地域づくりが大切である。」との意見が出た。
- 館腰地区では、見守り・高齢者向けイベントを希望していたため、認知症をテーマにそこからつながる地域づくりを考えていきたい。認知症カフェにつながる地域ケア会議に持って行きたいと考えている。

所 長：高館地区では、早期相談につながる体制づくりをテーマにする。高館地区は高齢化率 33%で、行政区によっては樽水地区は 60%を超えている状況で、高館地区は高齢化率が高いが、他の地区より相談件数が少ない。コロナで集まりやお茶のみが少なくなったこと、区長・町内会長・民生委員の制度が代わり個人情報の問題で情報のやりとりができなくなったこと、支援者の担い手がないことが課題として挙げた。

那智が丘地区では、避難行動要支援者同意登録名簿・防災について、名簿に載っている人の情報共有をケアマネジャーや障害者の相談支援事業所の相談員も呼んで実施した。地域の人の子供たちの登下校時に立っていてくれ、顔見知りになっており、地域での見守りができていると感じた。課題としては、名簿には載っているが、施設入所等で家にいない人がおり、名簿への載せ方を工夫でいなか社会福祉課に相談していく必要がある。

相互台地区では、認知症について話し合う予定であるが、相互台地区では認知症の啓発や認知症サポーター養成講座ができていないので、どんなことができるのか住民から意見を吸い上げたい。

ゆりが丘地区では、サロン等住民主体の活動が活発に行われているが、横のつながりが少ないとのことで、社会資源のつながりをテーマに実施する。情報交換や体制づくりができればと考えている。

所 長：いままで地域ケア会議ごとにアンケートを取っていたが、そこで毎回テーマが変わり、突き詰められていない、解決まで至らないという意見も多かった。そこで、今年度は地区ごとにテーマを決めて実施することにした。

増田西地区では、精神医療センターが近いということもあり、8050 問題を抱えている家庭も多く、関心が高いため実施した。回覧板を回し、一般住民 3 名も参加した。発達や精神障害を抱え、いじめや幼少期の問題からひきこもりが起きており、長期的な関りが必要との意見であった。個人情報が大きく、デリケートな問題なのでどのように関わっていくか、今後詰めていく予定である。

愛島地区では、愛島地区でも地域ごとに課題が違うので、今回は愛島台地区に絞って実施した。愛島台地区限定で実施することは初めてなので、地域ケア会議とは？地域づくりとは？から深めていく予定である。県のアドバイザー派遣事業を活用し、協議体発足に向けて、地域づくりについて継続して考えていきたい。

議 長：委員のみなさまから今の説明に対してご意見やご質問はございますでしょうか。

委 員：コーディネーターは高齢者をサロン等につなぐ役割があると思うが、孤立している人は相談に来ないのではないか。孤立している人、自分から相談に来ない人を発掘することが大切ではないか。

事 務 局：困り事や活動場所の相談があった際には、その都度サロン等紹介し、介護申請の相談など違う内容の相談や家族等からの相談があった場合でも、必要時紹介している。

委員がおっしゃるように自分から相談に来ない人もいらっしゃるでしょうから、そういうことも考えて出向いて働きかけていく必要もあるかと思う。

委 員：それぞれの地域でサロン活動が行われているが、仲間で固まってしまい、他の人に入れにくい傾向がある。特に女性がグループ化してしまう。たくさんの方が参加できるように入口を広くしてほしい。

事 務 局：ご意見として賜ります。

委 員：この生活支援体制整備事業は雲をつかむイメージで、なかなか理解すること、具

体的に実施することは難しいと感じ、介護長寿課も苦勞されているのではないかと察する。私も、資料が届いて勉強しましたが、3 層まである自治体もあるようだが、名取市は3 層まで設ける予定はあるのか。

事務局：名取市としましては、現在のところ3 層の設置は考えておりません。

委員：自分からアプローチできる人は問題ないので、自分から手を上げられない人にどのようにこの事業を知ってもらうか。ポータルサイトのように、情報が集まっており、その情報と自分をマッチングできる場を作れると良いのではないか。

事務局：参考にさせていただきます。生活支援コーディネーターで集まった時にも、地区ごとに地域資源の情報がまとまったシートがあったら良いのではないかとの話は出ていたところでしたので、具体化に向けて考えていければと思う。

委員：人と人のつながりは大切で、イベントにも高齢者だけでなく、子どもや若い世代も加わるようになっていければいいと思う。中学校への普及啓発を実施したように多世代を巻き込んだ形で事業を進めていければと思う。

5 その他

司会：それでは、「その他」に移ります。委員のみなさまから何かお伝えしたいことはありますでしょうか。

委員：特になし。

司会：事務局から次回の日程についてご連絡申し上げます。今年度は2 回の推進会議を予定しております。詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたしますので、よろしく願いいたします。

6 閉 会